

# あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

各種地図調整・印刷/地理情報システム  
立体地図・地図模型・地図パネル・地図掛け軸  
オンデマンドデジタル印刷・大判ポスター出力



株式会社 **アルプス** 出版社

〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目15番18号  
オフィスサンゴヤ 6F

TEL.052-931-1009 FAX.052-932-1312

<http://www.alpspublishing.co.jp/>

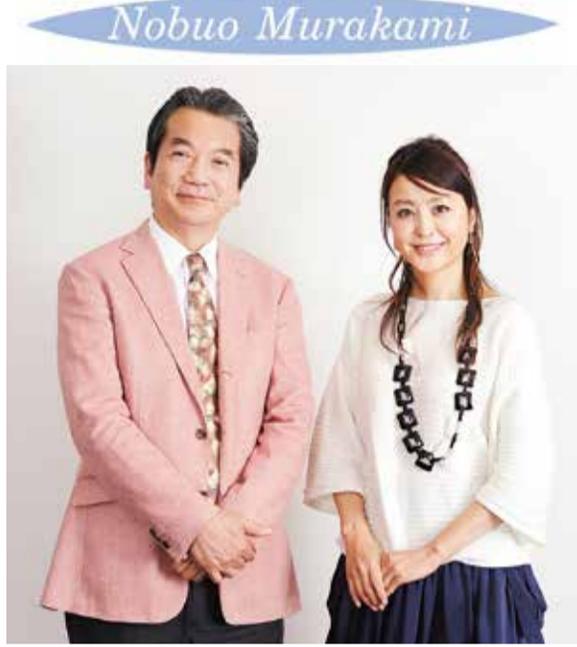
企画・制作：株式会社 新聞ビル

## 元氣のでてくる“ことばたち”

209

### 村上信夫

撮影・鶴崎燃



「父の壁がなくなった」  
タレント 大桃美代子さん

「自分が好きなことをする」  
大桃美代子さん

**■村上信夫プロフィール**  
2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。現在は、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送「日曜はがんばらない」(毎週日曜10:00~)、月刊『清流』連載対談〜ときめきトークなどで、新たな境地を開いている。各地で『ことば磨き塾』主宰。1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。著書に『嬉しいことばの種まき』『ことばのビタミン』(近代文藝社)『ラジオが好き!』(海竜社)など。趣味、将棋(二段)。  
<http://murakaminobuo.com>

かんと、新潟のお米を物々交換するつなぎ役として動き出しているんです。お金は介在しません。お互いの地域ではとれないものなので、そういうやり方もいいなと思っています」。

農業をやり始めて8年。かつて、ことごとく対立していた父からアドバイスをもっている。「農業の技術って口伝なんです。父から教わるのが、どれほど役に立つことか。波風立てずに、折り合いをつけていく大人としての処世術が身につけてきたのかもしれない。力みが消えて、柔らかくなった」。

大桃美代子さんと初めてお会いしたのは、20年くらい前のことだ。利発なタレントさんという印象だった。その後、地震にも遭遇し、目の病気にも罹った。それら、すべてが佳き年を重ねることに繋がっている。目のつけどころ、目の向ける方向が「地域の未来」を意識したものになっている。大きな桃に育っていると思った。

**好評発売中**

### 自分が好きなことをする

#### タレント 大桃美代子さん

**目の曇りは心の曇りに通ずる!?**  
大桃さんは白内障と緑内障を同時に患った。48歳のとき、手術をして右目に人工レンズを入れた。人工レンズにはピントを合わせる調節力がないので、左目ががんばってもらっているらしい。

年齢的にまだ早すぎると、少なからずシヨックだった。ストレスがたまると体の錆びが進んでしまう気がして、仕事をがむしゃらにするのはやめようと考えさせられた。これからは、仕事も人生も自分が好きなことをしていこうと思った。

彼女が仕事するには、三つの目的があった。一つはこの仕事を継続していくため、二つ目は自分の勉強のため、三つ目はお金をもらうため。だが、病気をしたこと、お金は少ななくてもいいから、自分のためになる仕事をしたほうが後半の人生が楽しくなると考えた。目を患ったことで、それに気づかせてもらった。一度立ち止まって、自分を振り返る機会が与えられたと思っている。

目の曇りは心の曇りに通じるとも思った。「肩こりがひどく、整体に行くと先生から肩肘を張って生きているねえと言われていました。それで、目が曇って見えると

父の壁がなくなった  
1965年新潟県生まれ。情報番組をはじめ、料理、クイズ、バラエティーと、幅広い分野で活躍している。雑誌アドバイザ、内閣府・災害被害を軽減する国民運動サポーターなども務めている。

「兄は真つ当な常識人でしたが、私は、親の意見を聞かずに、わが道を行くタイプだったので、家族の中では異端児でした。母からも堅気じゃないと言われてました」。

「でも、あとになってみると、親の言うことって正しいなどわかります。親は子どもをいぢばんわかってますからね。

「彼らがいつか大人になったとき、そういえば地域のお母さんたちがいろいろやってくれたな、僕たちは地域の人たちに愛されていったんかと思いつくはず。そこから、いつか地元に戻りたいと思う気持ちも生まれてくるような気がします。次の世代に伝えていかなければいけないことがたくさんあると思います」。

大桃さんの田んぼは、子どもや地域の人もいっしょに農作業をできるようにしている。農業体験を小さいときの楽しい記憶として、刷りこんでいくことも大事だ。

大桃さんは、農業の可能性は広がっていると指摘する。2050年までに世界の人口が90億人になるといわれているので、食糧不足は必ず起こる。そうなれば外国からの需要も増える。いまから農業の力をつけておけば、大きなビジネスチャンスがくる。

「Uターン」や「Iターン」で、地方に移り住み農業に取り組む若者も増えている。通常は出荷できない規格外の農作物を、独自のシステムで販路を広げ、流通させる仕組みを考え出している若者もいる。

「私も、瀬戸内海の島で若者が作ったみ



俳画/イネ・セイミ

**インディアンフルート教室**  
開講して15年  
誰でも簡単に音が出せる楽器です。  
あなただけの音から  
ミニコンサート  
開催中

**講師 イネ・セイミ**  
(日本インディアンフルート協会ディレクター)  
ネイティブアメリカンのスピリットが感じられる  
インディアンフルート。その音色はやさしく心に響きます。  
レッスン:30分4,000円 会場:平田市柳ヶ丘

会場:マツイン楽器店  
ミュージックガーデン武豊  
開講日(月2回)  
10:00~11:00  
グループ  
会費 1ヶ月8,802円(入会金15,400円)  
詳しくはマツイン楽器店本社 教室係まで  
フリーダイヤル:0120-37-5576

申込み  
お問合せ 0569-89-7127  
ine.seimi.jp@gmail.com



# 田村孟さんをめぐって (6) 杉本武之

## 山口瞳の疑問の解明

前回、私の大好きな作家・山口瞳のことを書きました。田村孟さんの思い出とは全然関係ありませんが、山口瞳が或る小説の中で書いていた疑問を、私がかたまま解明した経緯を、ここで書いておきたいと思えます。

山口瞳は、昭和62年に私小説的な作品集『庭の砂場』を出版しました。その中の『庭の砂場』は、庭に降る雨を見ていたら、砂の匂いがしてきた、と書き始められ、続いて、次のような文章が出てきます。

「どういふときに、私はむかし読んだことのある幼児の詩を思い出さす。……思ひだすと云うていいの、か、思ひだせないと言ったほうがいいのか、これもよくわからないが、何度が記憶を辿ろうとしたことがあって、いつも諦めてい

た。それを読んだのが、戦前のことだったのか戦後のことだったのか、それさえ忘れてしまった。

その詩は、小学一、三年生の男の子の詩である。幼児の詩だから、四行か五行の短いものである。だから、詩のストーリーだけは、よく憶えている。

庭のお砂場で遊んでいた、小さなシャベルが出てきた。それは死んだ妹の玩具のシャベルだった。それだけの詩だった。死んだ妹の、というところが、実名で○子というふうになっていた。玩具の、というところが、オモチャンになっていた。その子は、玩具をオモチャンだと思ひこんでいたのか、そういう癖があったのかしたの、だろうか。○子のオモチャン……。

私はそれを雑誌だか新聞だかで読んだとき、大



山口 瞳『庭の砂場』

いに心が動いた。その詩を読んだことを長く記憶しているのはそのためである。その詩が良い詩だとか悪い詩だとか、小学生の詩として傑作であるとかと言つてもいい。しかし

ですが、私のような生き方をした者でない、山口瞳の疑問を解き明かすことは殆ど不可能だと思われまふ。二つの偶然がぴたりと出会う必要があるのです。

しかし、その詩を読んだとき、感傷的な意味で、この詩のように単純に端的に直接的に人を悲しませる詩に出会うことはあるまいと思つた。

さて、私の発見の経緯

があり、戦前の学級に関する実践記録を何冊か読んだ人間であることが絶対に必要です。

私は、定年退職した後名古屋大学教育学部大学院に入りまして。そして、学級集団に関する研究に取り組みしました。厳しいけれど、とても親切な安彦忠彦教授の指導を受けました。先生は、学部の図書館にある本をたくさん読みなさい、と言いました。そして、定期的に読んだ本の感想文のようなものを提出させ、それについて、いろいろ話し合

まず第一に、その人が、山口瞳の愛読者であり、彼の『庭の砂場』を読んだ人間であることが必要です。そして第二に、その人が、小学校教育、それも特に学級経営に関心

実践記録です。読み物としても、『二十四の瞳』に負けないくらいよく出ています。その魅力を知ってもらうために、この本の内容について少し述べたいと思ひます。

平野婦美子の『女教師の記録』(西村書店)は、昭和15年(1940)に刊行されました。「浜の子等」と「長浦村にて」「町の子等」と「市川市にて」「工場地の子供」と「東京市第四日野小学校にて」の3部から構成されています。

最初の「浜の子等」の地域は、文化的にも低く、衛生面でも劣悪なところでした。平野は、多忙な親に代わって、子どもたちの風取り、爪切り、耳垢取りなどをやりました。また、「村の子ども」は、村の子どもに即した導きの手を差し伸べてやらねばならない」と考えて、いろいろ工夫して、学

次に「町の子等」の地域は、多くの点で恵まれたところでしたが、平野は、点数競争から来る

冷たく寒々とした教室の空気を感しました。「私は早くこのエゴイズムを打ち破り、点数崇拜の気風を改め、児童自ら知識を求めて行く喜びと苦しみを味わわせ、皆で教え合ひ、磨き合つて学習して行く楽しい教室生活を築きたいと思つた」

最後の「工場地の子供」との地域では、男たちは戦地に赴き、母親や姉は軍需工場で働いている家庭が多く、子どもたちは、学校から帰つても、誰もおらず、夕食も満足に食べずに寝込んでしまうことがよくありました。こ

私は、この平野婦美子の実践記録を読んで、深く感動しました。教育のことを考えている多くの教師や親たちが簡単に手

るように、どこかの出版社が再発行してくれるといいのに、と考えています。戦前の貴重な教育実践記録を読み、いよいよ、山口瞳の疑問を解明する時が来ました。

この平野婦美子の『女教師の記録』の中に、彼女が編集した、学級の子どもたちの詩集「青空のみち」から採られた詩が載っています。本の194ページに、山口瞳が読んで、大いに心を動かされた、問題の詩が出ています。

カエ子のおもちゃ  
糸校五雄  
おにわのすみをほつていたら  
カエ子のおもちゃんこの  
ホウチヨウがでてきた  
そうだ、カエ子といつもこ  
こで遊んだだけ  
おまじりのとき、うめてや  
らうと  
ぼくのおもちゃばこへ、し  
まつておいたの。

作者の小学生は、詩の内容について、担任の平野先生にこう報告しています。

「僕の妹のカエ子は疫病で死んでしまったの。お庭で砂遊びをしていたら、カエ子のおもちゃんこのホウチヨウの錆びたのが出て来たの。お墓参りの時に埋めてやろうと、砂を取って、僕の箱へしまつておいたの」

山口瞳は幾つか記憶違いをしています。彼は「小さなシャベル」と書いていますが、実は「ホウチヨウ」でした。また、「雑誌だか新聞だかで読んだ」と書いていますが、実は『女教師の記録』という著書でした。しかし、こうした教育実践記録まで読んでいたとは、さすが山口瞳だなあ、と感心してしまいます。

〈杉本武之プロフィール〉  
1939年 碧南市に生まれる。  
京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。  
〈趣味〉読書と競馬

後○時四十五分 開演 同一時十五分(同四時) 入場無料 問合せ ミュージック常滑 ☎080-336111-5481(水野)

▼バレエ発表会・二十七日(同) 開演 午後一時 入場無料 問合せ 伊藤裕子 ☎4316469

◎常滑市立図書館  
虹彩会油絵展(油彩画)・二日(同) 一日(同)  
常滑高等学校教職展(絵画・陶芸・クラフト、書等)・十二日(同) 十三日(同)  
常滑水彩画会展(水彩画)・二十四日(同) 四日(同)  
◎こなめ陶の森資料館  
企画展 常滑の陶彫教育・十三日(同)

▼常滑陶芸作家協会展 十九日(同) 二十日(同)  
◎こなめ陶の森陶芸研究所  
陶芸研究所修了作品展・五日(同) 十三日(同)  
▼常滑陶芸作家協会展 十九日(同) クラフエまで  
▼常滑市体育館  
ミュージック常滑 ピアノ発表会・十九日(同) 開演 午

## この指とまれ (240) 氏原朝信

昭和51年度 三年三組の学級通信「なかよし」

我が子の創作時間 U・A女の母  
学校から帰り、夕食が終わると始まるのが、我が子の創作です。部屋を見回し物を手にして一瞬まじまじと眺めるのです。そのうちに頭にひらめいた作品に挑戦し始め、必要な部品を家中から集めて作り出します。耳元で兄妹がテレビを見ていても目に入らないのです。この子にとって楽しくてたまらないこの一時です。

今年正月にこんなことがありました。習字紙にダイダイミカンをのせたお鏡餅を墨で書き、「神のもちびんぼう神、くるなそうろう」と書いて私の所にもつてきました。祖父が「『そうろう』のところがこの子の歳にしてはおもしろい」と言つて笑っていました。

このように、創作は多種多様な作品や絵から成長の様子をみることができると思っています。

娘と私 M・Y女の母  
先日、娘が私に「お母さん、編み物を教えて」と言うので「今忙しいから後でね。今度ね」と言う、待ちきれず、自分で本と編み棒と糸を出して編み出すのではありませんか。その手つきといまじょうか、見られたものではありませ

うち私の方がいららして「また今度ね」と言う、娘は真つ赤な顔をして一生懸命糸を解いたり編んだりおこつたりしていました。私は、娘の膝の所で横になり、うとうととして目が覚めると、まだ編んでいるではありませんか。

### 料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!

#### 簡単! パンクラムチャウダー

季節の変わり目余った野菜と余ったパンと耳を使って、栄養満点のスープを作っちゃいましょう!! 高校受験応援してますよ!

①食パン…1～2枚  
(耳を落とし、耳は包丁で細く刻む。白い方は1～2cmの角切り)  
牛乳…400cc  
※食パンを牛乳の中に入れて浸しておく(30分)

②バターorマーガリン…10g  
③ベーコン…2～3枚(1cm幅に切る)

◎余り野菜  
・大根…約5cm(皮をむき1cm角切り)  
・にんじん…1/2本(皮をむき1cm角切り)  
・玉ネギ…1/2個  
(皮と芯をとりのぞき、粗いみじん切り)

④あればアサリ缶…1缶  
⑤水…400cc  
⑥固形スープのもと…1/2～1個  
⑦塩こしょう

作り方  
①鍋に②を入れ中火にかけ、③も入れ炒める。さらに④を加え全体にしんなりしてきたら⑤も入れる。  
②③に⑥⑦を加え、味を見て(パンに味がついているので)⑧を加え味を整える。

生あさりを使う際は塩水で殻と殻をこすりあわせて洗い、ザルに上げ1/2量の牛乳で煮る。殻が開いたらアサリの身を取り出して、牛乳はキッチンペーパーでこして使用。

◎常滑市民文化会館  
常滑市伝統芸能離子発表会 六日(同) 開演 午後四時 半(開演 同一時) 同四時 十五分 入場無料 問合せ 常滑市伝統芸能離子発表会実行委員会 ☎3416027(平野)

▼平成27年度 日本ボーイスカウト 愛知連盟 富士スカウト 顕彰 十三日(同) 開演 午後一時三十分 開演 同一時(同四時) 入場無料 問合せ 知多西部地区スカウト進歩委員長 ☎8912435(杉江)

▼四方山話 第三弾・十七日(同) 一回目 開場 午前九時半 開演 同十時(正午) 二回目 開場 午後五時半 開演 同六時半(同八時) 入場無料 問合せ ぼたるの会・あさひ(090-9944-9653) 中野

▼ミュージック常滑 ピアノ発表会・十九日(同) 開演 午

ケットボール大会(五日) 知多南部パドミントン大会(六日) 歩こまいこなめ ふれあいウォーク2016(十三日)

▼愛知県高等学校卓球リーグ(九日) 春季中学生バレーボール教室(二十一日) 月曜

▼常滑カレッジユニバスケットボール大会(二十六日) 愛空塾空手道競技大会(二十七日)

◎常滑市中央公民館  
協賛公開講座「癒しの気功入門」五日(同) 十二日(同) 十九日(同) 午後二時(同四時) 全日 杉江満寿夫さん(NPO 太極拳養生会副理事長) 場所 中央公民館和室2・3 定員 十名(定員を超えた場合は抽選) 主催 ゆしん会 参加費 無料 持ち物 筆記用具・タオル 水分補給用のお茶等 申込期限 三日 申込み 生涯学習ポータル ☎4414600 中央公民館

誠意をこめて安心のお手伝い 年中無休・24時間体制

## (有)大阪屋葬祭

常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール

TEL<0569>35-4949 (代表) FAX 35-4911

知多の新鮮たまご 発酵ケイフン

(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ峯380 TEL0569-73-6341

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

—自分ドラマつくろう— (59) 岡田 清治

姫の就職2

舞はしばらく考えた後に、ふと我にかえるように真三の顔をのぞみこむように話しかけた。舞には善家の人間に見られる天真爛漫というまではないが、腹の中から喜びを伝える表情が顔にほとんと出ない。これは育った環境のためかと真三は舞の目と合った時に一瞬、頭をよぎる。

女房のるりに言わずと、善家には笑いが少ないと感じるそうだ。「私の実家では笑いがたえなかった」といつも誇らしげにいう。それだけ善家は他人から見れば笑いが少ないのだから、舞がそうであつてもなんら不思議ではないが、それでもどこか違うと真三は思うのだった。

「ところで、この病院はここまで大きくなるには、医学が日進月歩するだけ大変だったのでしょうかね」

「はじめのうちは二、三年分の収入を限度として借金をしていたが、医療法人に格上げになってから病院を改築するなど、悲壮な思いで借金を決意したそうです。しかも設備は一流のものを導入したい思いがあつたので、開業十年目に分相不相な借金をすることになったそうです」

「そのあたりは勤務医、サラリーマンと違うところですね」

「叔父さんの兄も医者でしたが、学究の道に進んだので病院経営とはまったく違ったね。病院の経営者には医師という、いわば技術者と、一方経営者として一人の人間の中で二人が同居していた。しかも医師としていつまでもダイヤモンドとして輝き続けたいという執念にも似た思いが根ざしていた。これを否定しては自分のレーゾン・デートル(存在理由)を失ってしまう。野間へ帰郷した意味が霧散する恐怖感がつきまとつた。しかし、経済的に成り立たないとダイヤモンドそれ自体が壊れてしまうという二律背反の決断にいつも悩まされたようです。新しい設備の導入は次々と続く。これで終わりということがない」

「医師という人の命に関わるお仕事だから普通のサラリーマンとは違いますね」

「そういうことより医者は儲かると信じている人は多く、いまだに医師を結婚相手に望む娘の親は結構、いるね。確かに収入が高いのは事実だが、仕事のきつさ、責任の重さを考えると、幸福の収支はどうかという気がするね」

「医者の家は息子や娘に後継ぎを求めますね。それだけいい職業だと思つているのは事実ではないですか」

「そういう面は否定できないが、案外、医者も世間が狭く自分たちの世界しか目に入らないところもあるのではないかと叔父さんは思つている。子どもを後継ぎにする思いで幼い頃から英才教育を受けさせ、とにもかくにも医師の国家試験に合格することだけを願うケースが多いのも事実です。ただ、職業の選択時に人の役に立ちたいという思いと、自分はこの仕事が好きなんだという考えが根底にないと、幸せな人生を送れるかということとは別な問題です。最近、都会から地方へ移住する若い人が増えているそうです。これまでは働く職場がないとか、子育ての環境が整っていないなどの理由で大都市に集中とくに東京の一極集中はひどいものがあります。東京でも23区内に住まいを持たない人が、多くの人は通勤時間に二、三時間かけている。物価も高いし、競争も

激しいなど、トータルで考えると、経済的収支も含め幸せ感では地方の方が高まっているという考えが広がつているといえます」

「病院長さんも東京からのUターンだったのですか」

「その頃とはだいぶ事情は違うと思うがね。病院長には医師は人の命を預かるのが仕事だという思いが強く、人が死ねば、その全人生が終わりである。この病院に入院



写真：瀬美半島(著者撮影)

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。 FAX: 0569-34-7971 メール: takamitsu@akai-shinbun.net



■プロフィール  
著者：岡田清治(おかせいじ)  
一九四二年生まれ ジャーナリスト  
(編集プロダクションNET108代表  
著書に『高野山開創二百年 いっ  
ぱんさん行状記』『心の遺言』あな  
たは社員の全能力を引き出せませ  
か!』『リヨンで見た虹』など多数

されている人たちは、すべてを病院長に任せている。だから病院長は患者に全精力を傾けて当然だという思いで働いてきたといえます」

「すごいですね。ただ最近のお医者さんを見ますと、かなり機械的といえますか、心が伝わってきませんね」

舞はお父さんが亡くなった時の病院の状況を思い浮かべた。決まりごとだとしても、そうした医師の態度に不信感を抱き、いまだにトラウマとなつて舞の内面にへばりついている。

「高齢化社会になつて病院に押しかける老人の数が増え続けている。叔父さんの家の近くのクリニックに高齢者の患者が、それも八割は女性だね。患者は看護士に血圧を測つてもらい、診察の順番を待つ。名前を呼ばれて診察室に入つて行くと、初老の医師が一週間前に血液検査を受けた結果の一覧表を見ながら基準値かどうかを確認してコメントする。その間、わずか一分程度です。血圧が高いとか、コレステロール値が基準値の範囲をはみ出していたら薬を出しておきますと、二言、三言交わして次の患者を呼び込む。それだけ患者が多いこともあるが、これが医者も患者もルーティーン的生活習慣のようになってしまつている」

「私のお爺ちゃん、お婆ちゃんも見てるとそういうところがありますね。定期的に通院しているようです」

「それら、薬に頼る体になつていくから仕方がないだろうが、それでも薬の量を減らしたり、いつかは飲まなくて済む体づくりを考えたりしてもよさそうだが、医者の方もつとり早い方法で片付けることになつていくように見えるね」

「開業医の場合は、患者中心の生活になつてしまうのでしょうね」

「病院長も子ども四人いるが、子どもたちと一緒に旅行したこともなく、外食も少なかったそうです。子どもたちの記憶にも父親と一緒に遊んだ記憶がないほど、多忙を極めていた」

「私の場合は父が退職後、入れ替わるように母が仕事を続け、父は保育所や幼稚園の送り迎えをして、家に帰るとよく遊んでくれました」

「舞さんはお父さんが残した手記『熟年パパ』は読んだと思うが、彼はその中で主夫業の悪戦苦闘ぶりを訴えている。ただ叔父さんには複雑な手記に思えてならない」

「そうですか、私には育児の大変さが伝わってきませんでした、今となつてはつらい思い出です」

「舞は自分の思う道を歩めばいい」と書き遺している点に注意を払つた。なにか具体的な将来像を書き遺すのかと思つたが、舞さんの思うままに生きてほしい、つまり自分で幸福をつかんでもらいたいという思いが伝わってくる。一方、普通のサラリーマンはこう書くしかないだろうと思つた。舞さんが幼い頃、彼は早期退職した自分の勤めていた新聞社の本社に連れていき「ここがお父さんが働いていた新聞社だよ」と舞さんに話しかける場面が出てきますが、叔父さんには未練たつぷりのように感じる。舞さんに大きくなつたらここで活躍してほしいとは言つていないが、負け組の兵の気持ちをお父さんは感じているね」

人間は歳をとり、毎日とくなく無目的で生きていく時、『自分の人生って何だったのか』と振り返る。その時に、自分を納得させることができる人は幸せを感じるが、何もなしとむなしくなるものです。これは勝ち組のトップまで上りつめた人でも、同じだと思つてね。つまり人間はどこまでいっても欲が深いということだろうね」

「私には難しいことですが、ただ私の記憶の中には父は生きていくように思えることは確かです。記憶がすべてです。その補助的な役割が手記であつたり、アルバムの写真であつたりするだけです」

「その通りだと思つよ。人間の魂は永遠だと言いますが、叔父さんからすれば、それは自分の記憶の中のことだと思つています。祖先を敬うこと自体はいいことだけど、それは自分の記憶の中にある祖先しか敬うことはできない。叔父さんも両親までは記憶に残つているが、祖父母のことはまったく記憶にないので、祖先を敬う気持ちは起ころない」

「そうですね。病院長先生はその点はどうだったのですか」

「そうしたことは聞いていませんが、ただ、自宅を新築した時、父親は『仏壇と神棚の場所だけは忘れるなよ』と一言だけ注文を付けたそうです。それが年老いてから子どもに対する愛情だとわかつた。つまり神仏への信仰は人生において一番安心が与えられる大切なことだと教えてくれたと思つたそうです。つまり、子どもは親の背中を見て育つということですが、孝心のない子どもは信用できないの思いは親と同じ年頃になつてはじめてわかつた」と病院長は述懐していったね」

「田舎とか、名門の家になるほど祖先崇拜、儀礼を重んじるように思います。都会では近所付き合いもそれほど濃厚ではありませんが、地方にいくほどコミュニティの結束力は強いようですよ」

「舞さんの祖父はお寺さんだったからそのあたりは厳しかったらうな」

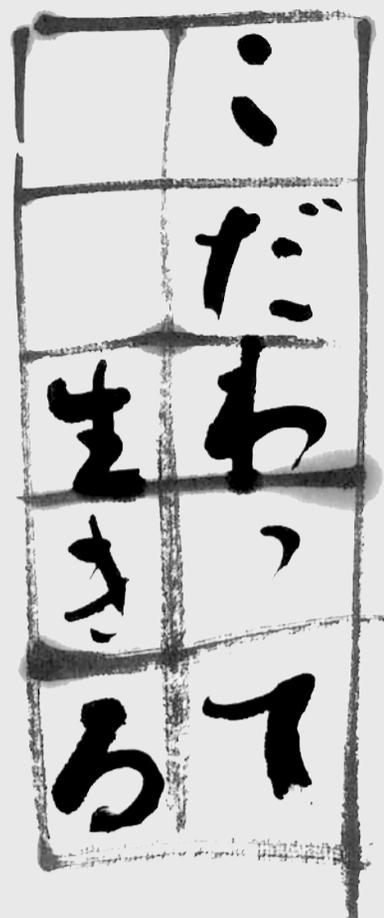
「そうですね。お墓に生けている花が枯れていると、周囲から厳しく批判されますので、住職の家ならすべてにわたつて祖先崇拜の模範にならなければならぬと思つていたと思つています」

「お母さんにもそういうことは感じるの」

「そうですね。なんでも事細かく指示します」

「健太郎の手記にも随所にそういう場面が出てくるね」

絵手紙集



絵文 樫山善久

返文 小林玲子

樫山善久

昭和十一年碧南市で生まれる。  
丸栄陶業株式会社代表取締役。  
碧南商工会議所会頭。  
愛知県陶器瓦工業組合理事長。  
全国陶器瓦工業組合連合会理事長などを歴任。  
平成二十二年旭日小授章受賞。  
平成二十二年旭日小授章受賞。  
丸栄陶業株式会社取締役会長現在に至る。  
京都造形芸術大学・通信教育部芸術学部美術科・  
洋画コース大学院修士課程一回生。

小林玲子

碧南市に育つ。  
西尾市在住  
共著「西尾の民話」  
童話「サケの子ピッチ」  
随筆「海辺のそよ風」  
(中経コラム「閑人帳」より)  
ミュージカル脚本  
「みぐりちゃんのおうち」ほか



七段飾りの雛人形 内上部四段描く

孫と娘に  
来てよ見てよと  
ひな飾り



日本の伝統文化である歳時記と  
後世に伝えたい今この頃です。  
立春が過ぎ、桃の節句にさなえ  
私の長女誕生に、妻の実家から  
頂いた七段飾りの雛人形を飾り  
ました。私は妹五人の六人兄弟です。  
戦後の物の無い時代に育ち、雛  
人形は、お百姓さんの農閑期に  
片平間で土を細工して素焼し  
泥絵具にニカワを混ぜ絵付けした  
素朴な「三河の土人形」でした。  
桃の節句に母が、餠と米粉で包み  
赤・黄・緑の色付した米で、せせら  
いが饅頭を懐かしく思っています。  
「いも饅頭、買って孫まつ爺と孫」

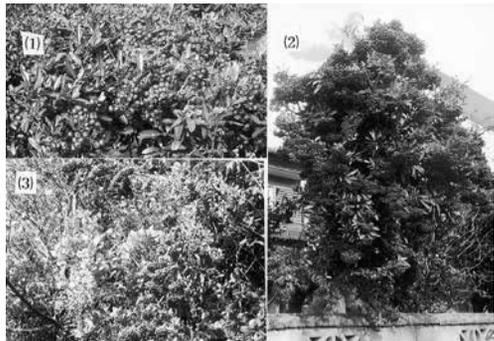
三寒四温がまだ止みませんが雛の時節になりました。  
可愛いお孫様と重なって美しい雛の絵になりましたね。  
作句の腕の上達ぶりに目を瞠っておりますが、  
なるほど歳時記をご愛読の様子に納得です。  
日本の四季の豊かさは誰もが認めるところですが  
その表現の多様さを私共は学びません。  
とても惜しいことですね。反省です。お言葉に拍手。  
益々よい絵よい句を拝読させて頂いて下さいます。  
ご夫妻おそろいのご趣味に心から乾杯です。 感謝



知多の動植物雑記(三三〇)

原 穰

今年の冬は暖冬であったはずなのに、記録的な寒波襲来となり、寒い寒い冬が続く、積雪の日もあつて、大変な日々が多かつた。三月ともなれば、庭や雑木林の赤い実も、無くなつてしまふが、美しい思い出として、あえて書いてみた。



美事な赤い実のピラカンサ

見事な赤い実が、たわぶつたのを見て感動した。去年の十一月二十六日、武豊町西部の雑木林で、赤い実が東になって下がり、オー見事と見上げる。そんなことを、某喫茶店の常連おばちゃんに伝えれば、「それはピラカンサだよ」と。早速家で「庭木・街路樹」図鑑を開けば「オーなるほど」と感動したものである。最近頂いた絵手紙にも「日陰の寒いところで、赤い実が輝いていました」と記されていた。ピラカンサ以外の赤い実にも、感動されるんだなと思うこととき

美の回廊 Vol.21

水野 伊津子 「スケッチこぼれ話・食事編」

私たちの旅はほぼ自炊です。日本から基本的な調味料や嗜好品を持っていき、現地のスーパーで野菜や肉・魚・パスタなどを調達して過ごします。貸別荘を1週間借りるとその村に住んでいるような気持ちになります。それが楽しいのです。日本の中でもお雑煮といっただけで地域によって多種多様なものがあるのと同じように行った先々で珍しい食材や料理に出会えます。私ももう一人の女性も料理好きで好奇心旺盛なので、足りないものは工夫したり、新しい食材にチャレンジしてみようと一日スケッチした疲れを料理することでリセットできるのです。週に一度か二度は外食する日もあるのですが、なるべく地域の名物を食べるようにしています。スペイン北田舎のほうでウサギとヤギのローストやマス料理をいただきました。スペイン南部では、ガスパチョ(にんにくとトマトときゅうりのスープ)やパエリアを、ギリシャでは、カッテージチーズとトマトいゆるグreekサラダを、イタリアでは、マルゲリータピッツアを、ポルトガルではタラの料理を、カリフォルニアではパッファローもいただきました。料理の名前まで覚えていなくて残念ですが、何を使って料理しているか解明して日本に帰ってきてから主人にふるまうのも楽しみの一つです。長い滞在ですので、食べるものが口に合わないと大変なことになりかねません。疲れて体力を失って険悪な雰囲気にもなりますし、病気も出てきます。食こそ長旅を支えるうえでとても大切なものです。私たちが必ず持って行くものを書き出してみました。日本の誇るべき調味料はやはり出汁です。昆布やカツオだしは、持って行くべき第一位です。ヨーロッパのトマト煮込みやオリーブオイルを使った料理にも昆布だしはよく合います。次にあげるのは味噌です。3日に一回くらい味噌汁が飲みたくなるんです。インスタントでもいいので持っていきます。調味料でなくて必ず持って行くのは梅干し。日本にいるときはあまり食べませんが、スケッチ旅行には必需品です。それからマヨネーズ、ヨーロッパにもあるんですが、マヨラーの私には、欠かせない味です。日本茶と麦茶もいります。ペットボトルに麦茶を入れ凍らせたものを暑い中スケッチしながら飲みます。アルファ米やそうめんも一時期持っていました。重いし、現地のパン屋は朝7時から買えますし、お米も売っています。コシヒカリしかダメとか贅沢を言わなければいいのです。逆に来年持っていくと話しているものはラーメンです。売ってないんですよ!どこ探しても。そのほかに持っていくべきものは日本のお菓子です。無性に醤油味のものが食べたくなります。おかし、甘納豆、茗わかめ、羊羹、かりんとう、抹茶味のもの。コーヒーもインスタントを持っていきます。日本人の口に合うようにブレンドしたものは向こうで探すより楽です。こんな風にストレスなく、自分たちの口に合うものを作りながら絵を描いて過ごす毎日には本当に絵を描くための一日で最高に贅沢で満ち足りていると心から感謝しています。

Honfleur オンフルール(フランス・ノルマンディ)今は人気の観光地。滞在中、大阪弁で話しかけられびっくり! テラス席でアイスクリームを食べながら絵を描く。帰国してから小品にした。「凧」SM 油彩

オンフルールスケッチ



凧



ちよつとおじやまします 山田 信子さん

「将来は東京出てバリバリのキャリアウーマンに」と幼い頃のなりたい自分にはなれなかったけれど、今、負わず、ありのままの自分を描けるようになってきた。お友達のボウタイデーのお菓子を公民館で作ろうと、十三日(日)午前十時、午後五時、場所 青海公民館 料理室 対象者 小学三年生、十九歳まで、定員 二十名(先着順) 参加費 無料 持ち物 作るお菓子の材料とラッピング紙、エプロン、三角巾、ふきん、枚台、申込期間 八日(火)~十三日(土)※申込ミキサーはあいません。※作りたいお菓子等は各自で考えてきて下さい。問合せ 青海公民館 ☎4316622

毛を染めて紡いだ糸から作ったという手袋は、ピンク、オレンジ、ブルー、グリーン...どれも色が合いが柔らかく、全体的に占められたような可愛らしさがある。女性らしいものや可愛いもの、いものに触れると、心も優しくなり、美しくなるもの。そうして、こうして素敵な品々に出合ったら、すかさず、作家を手チェック、すぐに作家と交渉するという周りは、「なんなの、その行動力は?」と笑われるけれど、「これが私なのよ」と、山田さんは言う。「来る者拒まず、去る者追わず」の言葉は、山

田さんの心の中に、大切に置いてあるという。山田さんはコミュニケーション抜群、自分よりずいぶんと年下の青年とも自然体で話に花を咲かせる。そして、話題豊富、面白い。いつも、このお店には若男女問わず、誰かがいる。この人のポジティブさが好きだ。聞けば皆が山田さんの大ファンであり、山田さん自身が好きだ。このお店からは、「私たちが行く所がないから、このお店はずっと続けて」と心に響く、素敵なエネルギーが送られることしばしばあるという。だから、山田さんの夢は100歳になっても、このお店をやっていること。そして、皆が私を必要としなかつた時、一人でリュック一つで日本の小さな美術館巡りがしたいと話した。(赤井伸衣)

若竹俳壇

作品募集 毎月十日までに集書して発行所へ

- 吉田ひろし 塚本千鶴 杉江民子 谷川と志江 関川光 片岡浩子 加藤久美子 古川義高 古川三恵子 竹内三彦 岩田つとむ 平野紀江 磯田純子 澤田利也 中尾節子 大高一男 江端久恵 桑山無久 清水トヲ吉 富田悦子 林京子 藤井文月 山崎洋子 浦崎とみ 荒川達雄 服部義平 村上義則 村上義則 都築信子 山田信子 柴山洋子 中村洋子

